研究区分	教員特別研究推進　独創・先進的研究

研　究 テーマ	移民受け入れ国の比較研究―東南アジア看護師・介護士の環流の視点から				
研究組織	代　表　者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野　みちよ
	研究分担者	所属・職名	ミュンヘン大学・教授	氏名	Gabriele Vogt
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発　表　者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	米野　みちよ

講演題目

移民受け入れ国の比較研究―東南アジア看護師・介護士の環流の視点から

研究の目的、成果及び今後の展望

目的

東南アジアの看護師は、グローバルな視野の中で、どのようにキャリアの選択をしているのかを、EPA で日本に来日したフィリピン・インドネシア・ベトナムの看護師・介護士たちを対象にして、明らかにする。そして、世界的な高齢化時代にともなう看護師・介護士の国際的な争奪戦の時代に、「選ばれる」国になるための条件はなにか、を探る。

成果

日本では、不足する人材を外国人（ほとんどがアジア人）で補うべく、外国人受け入れの政策を変更してきているが、人手不足の解消には程遠い。例えば EPA で受け入れた東南アジア３カ国の看護師・介護士たちは、国家試験に合格しても数年で帰国する例が多く、定着の難しさが指摘されている（平野・米野 2021)。一方、帰国後再来日するも者もいるし、あるいは別の国へ移動する者もいて、その動きは流動的であり、「帰国か定着か」といった従来の研究における二者択一的な枠組みでは捉えきれない。

1. 円安や日本での低賃金（欧米や韓国などに比べて）にもかかわらず、日本での就労を希望する人は少なくない。国際移動の目的や動機は、経済的なものばかりでなく、日本での生活水準・衛生環境・安全・政治的安定、また、本国での因習からの逃避なども、日本を「選ぶ」理由となっている。
2. 本国の看護師が、日本で介護士として働くケースが少なくないが、日本での滞在期間が長くなるにつれて、日本でも看護師として働くことを希望する人が少なくない。ただし、彼らが実際に看護師国家試験を受験するためには、数百ページもの書類を用意する必要があり、その費用も数十万円かかるなど、現実的でない。
3. 介護・看護人材が不足する中で、外国人を受け入れているものの、EPA、技能実習（就労育成)、特定技能のいずれも、医療機関・福祉機関に座学の専門教育および日本語教育を期待する構造になっているなど、日本の制度に多くの矛盾が見られる。https://u-shizuoka-ken.repo.nii.ac.jp/records/2000003

今後の展望

政策提言を積極的に行い、人手不足を解消する制度の改善を推す。紀要、出版などで成果を公開する。